

[論文]

シュマーレンバッハの内部取引計算に関する一考察

A Study on the Calculation of Schmalenbach's Internal Transaction

大澤 一雄

Kazuo OSAWA

〈目次〉	第1節	はじめに
	第2節	原価額計上のプロセス
	第3節	原価額配賦額計上のプロセス
	第4節	おわりに

第1節 はじめに

E. シュマーレンバッハが原価額の勘定における取り扱いに関して、具体的な数値を用いた勘定システムを以下において検討する。

第2節 原価額計上のプロセス

企業が創立された時点では資金提供者から調達した資金は資本金勘定の貸方・現金勘定の借方のそれぞれに計上される。資本金勘定は静止勘定 (Ruhende Konten) としてコンテン・クラス0として取り扱われる¹⁾。E. シュマーレンバッハが企業活動を計算対象として、その活

動内容を把握する勘定を設けて勘定間における振替手続きを数値例から検討を行っている。この場合、「経営には、現金の支払いとその現金 ((bar bezahlt)) との交換での販売だけを想定²⁾」し、債務 (Debitoren)・債権 (Kreditoren) を活用した経済財の購買・販売、受け取り・引渡しを内容とする交換を省いている企業活動を想定している³⁾。

企業活動を具体的な数値を活用して検討する場合、E. シュマーレンバッハは継続的な存在としての企業が決算の時点で繰り越されている勘定残高を設定している⁴⁾。これらの勘定を貸借対照表の形式にまとめると以下のようになる。

図表 2-1

貸借対照表 (Bilan)		
	現金・資金 (Kasse oder Finanz)	1,066.911
	賃金 (Löhne)	1.624
361,513	原材料 (Material)	
3,200	石炭 (Kohl)	
56,267	経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe)	
299,114	経営における個別原材料 (Einzelkostenmaterial im Betriebe)	
50,236	経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)	
298,205	完成品 (Fertigfabrikate)	
1,068.535		1,068.535

つまり、原価計算期間が一月を単位としての経営決算が実施された場合には、貸借対照表における借方 (Soll) と貸方 (Haben) が1,068.535で等しくなっていること、すなわち、一つの勘定残高においては企業活動を精確に把握・計算されていることが明確にならないが、計算対象としている活動を把握している勘定の残高を貸借対照表という一覧表にまとめることから計算内容の精確性が立証されたこととなる。

これらの期首残高 (Anfangsbest-nde) が貸借対照表に計上されている勘定に関しては、この期首残高と期中取引において認識された金額が計上されることとなる。

この期中取引については、現金・資金勘定⁵⁾を用いた取引の認識がおこなわれることになる。こうしたことからE. シュマーレンバッハが「月中における345,356が現金・資金勘定における借方に計上される。そして、345,356が費用としてではなく原価として認識・記録される場合には、資金が費用勘定ではなく、原価勘定に振り替えられることになる。つまり、現金・資金勘定の貸方に345,356が計上されると同時に原価勘定の借方に関連勘定の借方に計上されることとなる⁶⁾」を勘定間における振替手続きを計上した場合には、以下のようになる⁷⁾。

1) E. Schmalenbach: KOSTENRECHUNG UND PREISPOLITIK WESTDEUTSCHER VERLAG 1963 S. 406

2) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 412

3) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 412

4) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 410

図表 2-2

現金・資金 (Kasse order Finanz)	
諸口	345,356

原価諸勘定 (Kostenkonten)	
現金・資金勘定	345,356

E. シュマーレンバッハは原価勘定を具体的に検討するものとして「蒸気ボイラー会社と器具設計会社の製造原価 (Selbstkostenrechnung einer Dampfkessel- und Apparatebauanstalt)」を取り挙げている⁵⁾。これまでみてきたように資本勘定がコンテン・クラス 0 であり、財務勘定としての現金・資金勘定がコンテン・クラス 1 であり、原価項目のなかで材料の購買・給料の支給を取り扱う勘定をコンテン・クラス 3 と定めている。したがって、上記の図表 2-2 に示している現金・資金勘定の借方計上と原価諸勘定の貸方計上がコンテン・クラス 3 に位置する内部取引と考えることが可能となる。

さらに、E. シュマーレンバッハが想定している具体例において、建造物維持勘定 (Gebäudeunterhaltungskont)・機械維持勘定 (Maschinenunterhaltungskont)・工具維持勘定 (Werkzeugeunterhaltungskont) が想定されている。これらの勘定の借方には現金・資金勘定からの振替額に加えて建造物減価償却 (Gebäudentabschreibungenkont)・機械物減価償却 (GMaschinenabschreibungenkont)・工具減価償却 (Werkzeugeabschreibungenkont) が計上され

ている。そして、この減価償却費の計上に関して、E. シュマーレンバッハは「減価償却 (die Abschreibungen) は、はじめに (zunächst)、三つの維持勘定 (den 3 Unterhaltungskonten) の借方に計上される (belastet werden)、その配分基準 (Verteilungsschlüssel) は、その都度、同じものである (der gleiche ist) ためである。1 ヶ月に当たりの (im Monat) 減価償却がカルクラチオンされるために (zu kalkulieren sind) 算出されている (ausgerechnet hat)⁶⁾」ことを指摘しており、つまり、建造物維持勘定・機械維持勘定・工具維持勘定の借方に計上されている年度償却額は年間償却であり、それらを十二ヶ月で除することを意味するカルクラチオンが実施されると、建造物償却額 1,423・機械償却額 4,589・工具償却額 1,102 としてのカルクラチオン償却額が算定されたこととなる。

この現金・資金勘定と建造物減価償却費勘定から建造物維持勘定へ、機械物減価償却費勘定から機械維持勘定へ、工具減価償却費勘定からの工具維持勘定への振替計上のそれぞれを示すと以下ようになる。

図表 2-3

建造物維持勘定 (Gebäudeunterhaltungskont)	
現金・資金勘定	198
建造物減価償却	1,423

機械維持勘定 (Maschinenunterhaltungskont)	
現金・資金勘定	52
機械減価償却	4,589

建造物減価償却 (Gebäudentabschreibungenkont)	
年度償却額	17,076
	建造物維持 (月間償却額) 1,423

機械減価償却 (GMaschinenabschreibungenkont)	
年度償却額	55,068
	機械維持 (月間償却額) 4,589

5) この箇所では現金勘定ではなく、現金・資金勘定を用いている理由は、「財務勘定 (Finanzkonten) である勘定クラス 1 (die Kontenklasse 1)」が、企業が行う取引額の算定の基礎となる。したがって、取引に関して債権・債務を用いないことが前提とされていることから現金勘定のみで企業活動を認識するのではなく、経営目的に合致していることから財務データが認識され、企業外部との間での取引に関しては現金勘定に限定された経営目的と内容とする合致していることを表すことから資金を併せもつ勘定としての現金・資金勘定を活用する。企業内部における活動を計算対象とする場合には、費用としてではなく原価としての認識が行われること、つまり、原価の発生が経営目的と合致したものでなければならないことから、こうしたことを併せもっている勘定として現金・資金勘定を以下において用いることとする。

6) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 411

工具維持勘定 (Werkzeugeunterhaltungskont)

現金・資金勘定	139		
工具減価償却	1,102		

工具減価償却 (Werkzeugeabschreibungenkont)

年度償却額	13,224		
		工具維持 (月間償却額)	1,102

これら三つの減価償却勘定からこれらに関連している維持勘定への振替手続きが行われた時点では、維持勘定の借方には建造物・機械・工具の取得価格を基礎とした一ヶ月当たりの償却額が計上されていることになる。

18の原価場所として挙げられている部門のうち、販売特別原価 (Verkaufssonderkosten) 12,160、商人的管理 (Kaufm. Verwaltung) 6,072、なべ製造工場「製缶工場」(Kesselschmiede) 363、技術的管理 (Techn. Verwaltung) 359、と比較して、溶接所 (Schweisserei) 65、金属細工「鍛冶 (かじ) 屋」(Schmiede) 65、モデル製作所 (Modellschreinerei) 92では原価としての賃金の発生状況が小額となることが想定されている。

賃金の発生額データから原価部門の管理者に支給される給料の観点から、幾つかの原価部門をまとめてこうした原価部門に従事している工具に対する賃金計算に関しては、部門を個別に取り扱うのではなく、共通的に取り扱う計算方法が提示されている⁷⁾。

当月初に把握されている給料 (Gehälter)・賃金に関連している金額は給料 (Gehälter) 1,624であり、賃金 (Löhne) に関してはデータが想定されていなかった。給

料 (Gehälter) 勘定の貸方に計上されている1,624は18の原価部門に対して振り替えられているものと考えられる。

賃金 (Löhne) 勘定に関しては、経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe) 勘定・経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe) へ振り替えられる手続きが実施される。

また、現金・資金勘定 (Kasse oder Finanz) における貸方計上額から、部門の従業員などに定期的に支払われる給料 (Gehälter) が14,961・労働に対して時間単位などを基礎として把握された賃金 (Löhne) が43,657であった。さらに、E.シュマーレンバッハは、原価計算期間内における「個別賃金 (Einzelkostenlöhne) 37,401、共通賃金 (Gemeinkostenlöhne) 6,597が想定されている¹¹⁾」としている。

これら給料 (Gehälter) 勘定・賃金 (Löhne) 勘定・経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe)・経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe) の四つ勘定の計上状況を示すと、以下のようになる¹²⁾。

図表 2 - 4

給料 (Gehälter)

現金・資金勘定	14,961		
---------	--------	--	--

賃金 (Löhne)

現金・資金勘定	43,657	諸口(期首残高)	1,624
		個別賃金	37,401
		共通賃金	6,597

経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe)

諸口(期首残高)	56,267		
賃金	37,401		

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)

諸口(期首残高)	50,236		
賃金	6,597		

7) 現金・資金勘定の貸方には、月中すなわち期中における取引額・原価諸勘定への振替額の集計額345,356が計上されている。他方、原価の消費・発生内容をあらわしている原価勘定における計上状況は付表1に示している勘定システムとなる。

8) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 406

9) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 410~411

10) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 412

11) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 412

共通賃金 (Gemeinkostenlöhne) 6,597に関して、E.シュマーレンバッハが「7月に関して三つの2週間の賃金期間 (Vierzehntage-Löhnungstagen) が問題となる、ここでは、12日間毎の労働期間でもって (mit je 12 Arbeitstagen)、以下のような共通賃金 (folgende Gemeinkostenlöhne) が数えられている (gezahlt worden seien) ことが想定されている¹³⁾」ことを指摘し

ており、すなわち、7月の一ヶ月間を三つの2週間の賃金期間 (Vierzehntage-Löhnungstagen) に区分した賃金額の発生状況の共通賃金勘定における処理内容が検討されているものと考えられる。三つの2週間の賃金期間に関して、以下にみられる期間毎における賃金額の発生状況を示している¹⁴⁾。

図表 2-5

賃金データ	賃金額	6月	7月	8月	7月に配分
7.7	3,248	1,624	1,624	—	6/12
24.7	3,008	—	3,008	—	12/12
8.8	2,947	—	1,965	982	8/12
		6,597			

つまり、想定されているデータにおける「賃金データ」は一定期間毎に賃金額が集計される時点・日付を意味しており、7月7日時点での計算された賃金額は3,248、7月24日時点での計算された賃金額は3,008、8月8日時点での計算された賃金額は2,947と想定されている。共通賃金額は計算期間内における従業員の作業時間から算定されるべきものであるが、上記の想定データでは暦日毎に算定された原価データである賃金額が示されている。

暦日の7月は31日間であるが、2週間の賃金期間 (Vierzehntage-Löhnungstagen) を考量した場合の日付の確認が以下の図表 2-6 においてみられているように行われているものと考えることが可能となる。この日付の確認に加えて7月における共通賃金額6,597は、6月において支給されていない分1,624と7月に支給されるのではなく8月に支給される1,965が含まれることとなる。

図表 2-6

	賃金計算期間6/24~7/7		賃金計算期間7/8~7/24		賃金計算期間7/25~8/8		
6/23	6/24~6/30	7/1~7/7	7/8	7/24	7/25~7/31	8/1~8/8	8/9
	賃金額	3,248	賃金額	3,008	賃金額	2,947	
	共通賃金額 6月分	1,624	共通賃金額 7月分	3,008	共通賃金額 7月分	1,965	
	共通賃金額 7月分	1,624			共通賃金額 8月分	982	

当月の月初に把握されている原材料 (Material) は 361,513であり、当月期間内における材料の購買額263,548が想定されている。これらの金額は原材料市場から購買

した時点での価格である仕入価格 (Einstandspreisen) に基礎を置いている。給料・賃金に関する場合と同様に、個別材料 (Einzelkostenmaterial) ・共通材料

12) 賃金 (Löhne) 勘定・経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe) ・経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe) の三つの勘定に関しては、期首残高が計上されている。賃金勘定の期首残高は、未払賃金額であり、経営における個別原価賃金勘定の期首残高は、完成品に含まれる金額であるが製品が完成された時点でこの勘定から完成品勘定へ振替えられる金額であると考えられる。経営における共通原価勘定の期首残高は、付表2における賃金勘定の貸方に計上されている状況であると理解できるように当期における賃金発生額6,597が個別原価賃金以外の勘定へ振り替えられており、これらの振り替えられた勘定から完成品勘定の借方に振り替えられていることから、賃金以外の費目からの振替額から構成されているものと考えることが可能となる。このことから賃金勘定の貸方計上6,597と便宜的に借方計上が経営における共通原価勘定に計上されている意味から括弧で括る形式が示してある。

13) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 412

14) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 412

(Gemeinkostenmaterial) に区分されることになる。個別材料は「半製品（「＝仕掛品・製造」Halbfabrikate）」へ振り替えられることとなるが、経営における個別原材料（Einzelkostenmaterial im Betriebe）へ振り替えられるもとし、共通材料は18の原価部門に対して振り替えられるが、この18の原価部門への振替手続きに関しては経営における共通原価（Gemeinkosten im Betriebe）へ振り替えられる手続きが実施される。

特に、在庫されている原材料が経営における個別原材料（Einzelkostenmaterial im Betrieb）勘定・経営における共通原価（Gemeinkosten im Betriebe）へ振り替えられる手続きが実施されるものと考えることが可能となる。

E. シュマーレンバッハは「仕入価格の記帳（die Verbuchung zu Einstandpreisen）は、古い材料は古い価格を伴い（altes Material mit alten）、そして新しい材料は新しい価格を伴い（neues Material mit neuen Preisen）（仕入価格の記帳は）ごたまぜになっており（durcheinanderkommen ist）、単純ではない（nicht einfach ist）、したがって、精確な計算が行われようとする場合には（wenn man genau rechnen will）、それぞれの材料消費の場合には（bei jedem Materialverbrauch）、これらの「仕入価格が異なる」材料がいずれの価格で（welchem Preise）購買されたかを詳細に（speziell）定められなければならない（feststellen muss）」ことが指摘されている¹⁵⁾。加えて、「こうしたケースに関しては、しばしば一般的には（vielfach übliche）、より迅速な配賦計算価格「＝振替価格」（Verrechnungpreise）の活用がある」点を併せて指摘している¹⁶⁾。

つまり、購買された原材料の価格は仕入価格、経営内に引き渡される原材料は振替価格という異なる価格の特質を持つことになる。しかしながら、仕入価格と振替価

格が同額となる場合も考えられるが、これら二つの価格は振替価格の決定の基礎には仕入価格の認識が的確に行われていることを前提としていることになる。加えて、振替価格の計算プロセスが期間毎に評価方法が異なる方法が選択されるのではなく継続した同一の評価方法が用いられることによって精確な振替価格が算定されることになることが可能となる。

以下の図表2-7にみられる原材料（Material）・経営における個別原材料（Einzelkostenmaterial im Betriebe）・経営における共通原価（Gemeinkosten im Betriebe）の三つの勘定には、当月初の時点で把握されていた前月からの繰越高に加え、原材料勘定に関しては仕入高263,548が計上されている。原材料の借方の合計額625,061が当月中における製造活動プロセスに投入されることになる考えられる。

原材料が製造活動プロセスに投入されること、すなわち、生産プロセスへの搬送が行われる場面での時点で把握される場合には、仕入価格に基礎を置いている振替価格から算定される消費額が原材料勘定の貸方に計上されることになる。原材料が生産プロセスに引き渡された時点では、生産プロセスにおける受け入れに関する手続きが実施される。この手続きは経営における個別原材料勘定と経営における共通原価勘定の借方に計上されることになる。

原材料消費額として285,349が、そして、その内訳として消費個別材料額282,460、共通材料2,889が想定されている¹⁷⁾。これらの原価額が原材料（Material）・経営における個別原材料（Einzelkostenmaterial im Betriebe）・経営における共通原価（Gemeinkosten im Betriebe）の三つの勘定に計上された時点での計上状況を図表2-7においても併せて計上している。

15) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 413

16) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 413

17) 12)における三つの勘定に関して検討したように、原材料に関しても、原材料勘定の貸方に計上されている2,889は付表2における原材料勘定の貸方に計上されている状況であると理解できるように当期における原材料消費額2,889が個別原材料以外の勘定に振り替えられているものと考えられることから、この消費額・振替額2,889の便宜的な借方計上が経営における共通原価勘定に計上されている意味から括弧で括る形式が示してある。

図表 2 - 7

原材料 (Material)			
現金・資金勘定	361,513	個別原材料	282,460
現金・資金勘定	263,548	共通原価	2,889
	625,061		(285,349)

経営における個別原材料 (Einzelkostenmaterial im Betriebe)			
現金・資金勘定	299,114		
原材料	282,460		

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
現金・資金勘定	50,236		
賃金勘定	6,597		
原材料	2,889		

図表 2 - 1 において前月から繰り越されている残高 3,200 が計上されている石炭勘定に関しては、E. シュマーレンバッハは当月中に購買された金額が 2,445・当月消費額が 2,845 であることを想定しており¹⁸⁾、これらのデータから期末残高 2,800 が算定されることとなる。そして、これら石炭に関する計算が勘定面で行われる状況については付表 2 の石炭勘定において確認することが可能となる。

第 3 節 原価額配賦額計上のプロセス

前節において月初の時点における勘定クラス 1 (Kontenklasse 1) であり、唯一の勘定である現金・資金 (Kasse order Finanz) と生産プロセスにおける製造活動からのデータから賃金額が算定されているが従業員に支給されていない金額を計上している給料勘定の二つ

の勘定から振り替えられている勘定群の計上状況が図表 2 - 1 における貸借対照表において示されていた。そして、当月における企業活動が進められているなかで、必要となる経済財が現金・資金の支払いによって調達されることであった。その後、付表 2 - (1) にみられる現金・資金勘定の貸方に計上されている給料勘定から販売特別勘定までの 22 の勘定へ振り替えられている。この 22 の勘定への振替額の合計が 345,356 であった。現金・資金勘定の貸方に計上されている内容は、これら期中取引として把握された 345,356 に期首残高 1,066,911 を加算した 1,411,267 と算定される。この 1,411,267 から、期中の現金による販売高 387,198 を差し引くことによって、現金・資金勘定における期末残高 1,025,069 が算定される。特に、期中の現金・資金の支出額 345,356 の内容を勘定システムにおける関連勘定への計上状況を見ると、以下のようになる¹⁹⁾。

図表 3 - 1

現金・資金 (Kasse order Finanz)			
		諸口	345,356

給料 (Gehälter)			
現金・資金勘定	14,961		

賃金 (Löhne)			
現金・資金勘定	43,657		

原材料 (Material)			
現金・資金勘定	263,548		

石炭 (Kohle)			
現現金・資金勘定	2,445		

18) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 413

19) E. Schmalenbach: KOSTENRECHUNG UND PREISPOLITIK WESTDEUTSCHER VERLAG 1963 S. 410~411

建造物 [=建物] 維持 (Gebäudeunterhaltung)		
現金・資金勘定	198	

工具維持 (Werkzeugunterhaltung)		
現金・資金勘定	139	

経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)		
現金・資金勘定	6	

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)		
現金・資金勘定	2	

技術的管理 (Techn. Verwaltung)		
現金・資金勘定	359	

機械維持 (Maschinenunterhaltung)		
現金・資金勘定	52	

照明・点灯 (Beleuchtung)		
現金・資金勘定	4	

一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)		
現金・資金勘定	166	

福利 (Wohlfahrt)		
現金・資金勘定	340	

商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)		
現金・資金勘定	6,072	

付表 2-2)における建造物維持勘定 (Gebäudeunterhaltungskont)、付表 2-3)における機械維持勘定 (Maschinenunterhaltungskont)、付表 2-4)における工

具維持勘定 (Werkzeugeunterhaltungskont) のそれぞれの勘定に関して、建造物減価償却額以外の発生原価額の計上をみると以下のようになる²⁾。

図表 3-2

建造物 [=建物] 維持 (Gebäudeunterhaltung)		
	諸口	1,836

経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)		
	44	

一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)		
	50	

技術的管理 (Techn. Verwaltung)		
	76	

なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)		
	488	

設計 [開発] (Konstruktion)		
	258	

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)		
	16	

福利 (Wohlfahrt)		
	23	

商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)		
	119	

溶接所 (Schweisserei)		
	113	

金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiede)		
	56	

2) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 411

機械製造 I (Maschinenbau I)			
	388		
モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	51		

機械製造 II (Maschinenbau II)			
	154		

図表 3 - 3

機械維持 (Maschinenunterhaltung)			
		諸口	7,425
経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
	649		
照明・点灯 (Beleuchtung)			
	336		
福利 (Wohlfahrt)			
	533		
技術的管理 (Techn. Verwaltung)			
	64		
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)			
	1,886		
設計 [開発] (Konstruktion)			
	1,312		
機械製造 I (Maschinenbau I)			
	979		
モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	181		

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)			
	359		
一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)			
	356		
商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)			
	68		
溶接所 (Schweisserei)			
	187		
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)			
	367		
機械製造 II (Maschinenbau II)			
	148		

図表 3 - 4

工具維持 (Werkzeugunterhaltung)			
		諸口	2,783
経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
	10		

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)			
	9		

ここまでの図表 3-1～図表 3-5 においては、すなわち、現金・資金（Kasse order Finanz）勘定、建造物維持勘定（Gebäudeunterhaltungskont）、機械維持勘定（Maschinenunterhaltungskont）、工具維持勘定（Werkzeugeunterhaltungskont）、給料（Gehälter）勘定の貸方計上額のすべてが、原価計算期間において発生さ

せられた原価額として、それぞれの図表にみられる振替先勘定の借方に計上されている。このことは、これら五つの勘定が原価計算期間を基礎に把握されることを意味するにとどまるものではなく、原価計算期間末には、五つの勘定残高として計上されることがないことを意味しているものと考えていることが可能となる

図表 3-6

賃金（Löhne）			
		諸口	43,998
建造物 [=建物] 維持（Gebäudeunterhaltung）			
	143		
工具維持（Werkzeugunterhaltung）			
	1,102		
経営エネルギー [従業員] I（Betriebskraft I）			
	359		
照明・点灯（Beleuchtung）			
	50		
なべ製造工場 [製缶工場]（Kesselschmiede）			
	864		
機械製造 I（Maschinenbau I）			
	686		
モデル製作所（Modellschreinerei）			
	67		

機械維持（Maschinenunterhaltunge）			
現金・資金勘定	1,353		
経営エネルギー [従業員] II（Betriebskraft II）			
	142		
一般経営 [=管理]（Allg. Betrieb）			
	648		
設計 [開発]（Konstruktion）			
	1,002		
機械製造 II（Maschinenbau II）			
	181		
個別賃金（Einzelkostenöhne）			
	37,401		

図表 3-7

原材料（Material）			
		諸口	285,349
建造物 [=建物] 維持（Gebäudeunterhaltung）			
	72		

機械維持（Maschinenunterhaltunge）			
現金・資金勘定	1,431		

工具維持 (Werkzeugunterhaltung)			
	440		
経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
	117		
照明・点灯 (Beleuchtung)			
	25		
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)			
	208		
設計 [開発] (Konstruktion)			
	121		
機械製造 I (Maschinenbau I)			
	172		
モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	46		

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)			
	54		
一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)			
	167		
溶接所 (Schweisserei)			
	7		
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiede)			
	3		
機械製造 II (Maschinenbau II)			
	26		
個別材料 (Einzelkostenmaterial)			
	282,460		

図表 3-6 の賃金 (Löhne) 勘定と図表 3-7 の原材料 (Material) 勘定において、それぞれ個別賃金 (Einzelkostenöhne) 勘定と個別材料 (Einzelkostenmaterial) 勘定とに振替えられる手続きが、これら二つの勘定における借方計上額37,401と282,460から確認することが可能である。

これらの計上額は、賃金に関しては、原価計算期間内で発生した賃金額が個別賃金 (Einzelkostenöhne) 勘定の貸方に計上されていることは、借方計上が賃金が算入されるべき製造物を計算対象とする勘定への原価計算期間末における振替手続きが行われることを考えることが可能となる。つまり、この原価計算期間末において生産途中にある仕掛品の場合には、仕掛品勘定の借方に振替えられ、また、仕掛品の加工進捗度にしたがって市場性を持つ状態での仕掛かり途中の製品の場合には、半製品勘定の借方に振替えられることとなる。さらに、当然の結果として、原価計算期間中に完成させられた製品に関

しては、製品勘定の借方に振替えられることになる。

原材料が個別材料に振替えられたことによって、振替先であると同時に、計算対象となっている場所が特定されることを意味するものと考えることが可能となる。つまり、調達されて原材料が原材料保管倉庫から生産プロセスそのもの・生産プロセスに隣接している位置に搬送されている。また、これら生産プロセスに関連している場所からの請求があった場合・時点において、早急に搬送可能な状態で原材料保管倉庫において格納されていると考えることが可能である。こうし原材料の状況を個別材料 (Einzelkostenmaterial) 勘定が役割をもっているものと考えることが可能である。そして、この個別材料 (Einzelkostenmaterial) 勘定において原材料保管倉庫とは異なっている場所・保管するという目的とはことなり生産プロセスに投入される状況であるという2点の観点から原材料が繰越されていることをあらわすことになると考えることが可能となる。

図表 3-8

石炭 (Kohle)		
	諸口	2,845
経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)		
	1,147	
照明・点灯 (Beleuchtung)		
	202	
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)		
	86	
設計 [開発] (Konstruktion)		
	181	
機械製造 I (Maschinenbau I)		
	62	
モデル製作所 (Modellschreinerei)		
	20	

図表 3-8 にみられる石炭 (Kohle) 勘定に関しては、図表 3-7 の原材料 (Material) 勘定と同様に、調達市場からの石炭そのものの購買がなされたものであるが、石炭そのものが製品製造に資する目的を持つものではなく、図表 3-8 において借方計上されている勘定が計算対象としている場所において消費されるものと考えることが可能であり、このことから、原材料勘定においてみられるような個別材料勘定への振り替えられることがなく、したがって、原価計算期間末において、在庫されている石炭のすべては、石炭勘定において繰越手続きの対象になるものと考えることが可能である。

E. Schmalenbach, a.a.O., S. 410

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)		
	972	
溶接所 (Schweisserei)		
	60	
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)		
	91	
機械製造 II (Maschinenbau II)		
	24	

このような石炭 (Kohle) 勘定に関して検討したことが、図表 3-9 の照明・点灯 (Beleuchtung) 勘定・図表 3-10 の経営エネルギー「従業員」I (Betriebskraft I) 勘定・図表 3-12 の経営エネルギー「従業員」II (Betriebskraft II) 勘定に関しても当てはまるものと考えることが可能である。つまり、石炭の燃料用途という製品製造に直接的に関わるものではなく、間接的に、または、製品製造を準備・維持することを目的としていることを表している勘定として、これら石炭勘定・照明・点灯勘定、経営エネルギー「従業員」I 勘定、経営エネルギー「従業員」II 勘定を考えることが可能となる。

図表 3-9

照明・点灯 (Beleuchtung)			
		諸口	617
一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)			
	48		
技術的管理 (Techn. Verwaltung)			
	47		
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)			
	94		
設計 [開発] (Konstruktion)			
	111		
経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
	136		
モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	36		
商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)			
		57	
溶接所 (Schweisserei)			
		20	
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmidede)			
		32	
経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)			
		37	

図表 3-10

経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
		諸口	2,332
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)			
	711		
設計 [開発] (Konstruktion)			
	1,025		
モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	158		
溶接所 (Schweisserei)			
		70	
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmidede)			
		367	

図表 3-11

一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)		
	諸口	2,040
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)		
	449	
設計 [開発] (Konstruktion)		
	510	
機械製造 I (Maschinenbau I)		
	633	
モデル製作所 (Modellschreinerei)		
	122	

溶接所 (Schweisserei)		
	71	
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)		
	82	
機械製造 II (Maschinenbau II)		
	173	

図表 3-12

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft I)		
	諸口	1,554
機械製造 I (Maschinenbau I)		
	1,399	

機械製造 II (Maschinenbau II)		
	155	

図表 3-13

福利 (Wohlfahrt)		
		896

技術的管理 (Techn. Verwaltung)		
	896	

図表 3-14

技術的管理 (Techn. Verwaltung)		
	諸口	8,480
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)		
	1,866	
設計 [開発] (Konstruktion)		
	2,210	

E. Schmalenbach, a.a.O., S. 410

溶接所 (Schweisserei)		
	297	
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)		
	339	

機械製造 I (Maschinenbau I)			
	2,628		

モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	509		

機械製造 II (Maschinenbau II)			
	721		

図表 3-15

商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)			
		諸口	11,790

なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)			
	865		

設計 [開発] (Konstruktion)			
	982		

機械製造 I (Maschinenbau I)			
	1,218		

モデル製作所 (Modellschreinerei)			
	235		

E. Schmalenbach, a.a.O., S. 410			
	896		

溶接所 (Schweisserei)			
	138		

金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)			
	157		

機械製造 II (Maschinenbau II)			
	335		

一般販売原価 (Allgem. Verkaufskosten)			
	7,860		

図表 3-11の一般経営「=管理」(Allg. Betrieb) 勘定・図表 3-14の技術的管理 (Techn. Verwaltung) 勘定・図表 3-15の商人的管理 (Kaufm. Verwaltung) 勘定のこれら三つの勘定に関しては、付表 2-(9)において貸方計上よりも借方計上内容から、これら管理勘定の特徴が把握可能になるものと考えられる。すなわち、技術的管理 (Techn. Verwaltung) 勘定・商人的管理 (Kaufm. Verwaltung) 勘定の二つの勘定における借方計上内容において、給料勘定からの振替額が大きな比重を占めていることが理解できる。そして、このことはこれら三つの管理勘定が他の原価勘定が製品製造計算を目的としていることとは異なる目的を持つものであると考えることが可能である。

E. シュマーレンバッハは、製品製造原価計算に関わる原価勘定を勘定クラス 3 (Kontenklasse 3) としている。このことは、これまでみてきたように図表 3-1 にみられる現金・資金勘定が勘定クラス 1 であり、財務簿

記において取り扱われる勘定であり、この現金・資金勘定の貸方に計上されている内容に対して、図表 3-1 に示されている他の勘定の借方計上されている。そして、これら借方計上されている金額が借方残高として把握されることになる³⁾。

そして、図表 3-2 以降から図表 3-15 までにみられるように、様々な勘定の貸方計上が表示されており、この貸方計上に対応する借方計上が製品製造勘定に関わる勘定よりも、E. シュマーレンバッハが、「共通補助経営：Allgemeine Hilfsbetriebe」、「特別補助経営：Besondere Hilfsbetriebe」、「主要経営：Hauptbetriebe」を計算対象としているそれぞれを共通補助経営 (Allgemeine Hilfsbetriebe) 勘定・特別補助経営 (Besondere Hilfsbetriebe) 勘定・主要経営 (Hauptbetriebe) 勘定として、共通補助経営勘定を die Klasse 5 とし、特別補助経営勘定を die Klasse 6 とし、主要経営勘定を die Klasse 7 としている⁴⁾。

3) 図表 3-1 の内容と付表 1 の内容とは、同一ものである。

これら勘定クラス3 (Kontenklasse 3) とdie Klasse 5・die Klasse 6・die Klasse 7は同義のであり、勘定の特質をあらわすものであり、勘定名から勘定特性を把握することが可能となる。しかしながら、こうした勘定名からではなく、勘定の借方計上内容と貸方計上内容からの勘定クラス (Kontenklasse) の把握がなされるものと考えることが可能となる。

このことを、図表3-13の福利 (Wohlfahrt) 勘定に

関して当てはめてみると、この福利勘定の貸方計上額896全額が技術的管理 (Techn. Verwaltung) 勘定の借方に振り替えられている。さらに、同じ福利 (Wohlfahrt) 勘定に関する付表2-(9)に示されている福利勘定の借方計上内容と貸方計上内容から、図表3-13の福利 (Wohlfahrt) 勘定がカルクラチオンの的に処理された勘定⁵⁾であるものと考えることが可能となる。

図表3-16

なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)			
			9,210

「19」溶接所 (Schweisserei)

溶接所 (Schweisserei)			
			9,210

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
		9,210	

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
		9,210	

図表3-17

設計 [開発] (Konstruktion)			
			8,857

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
		8,857	

図表3-18

金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)			
			1,790

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
		1,790	

図表3-19

モデル製作所 (Modellschreinerei)			
			1,714

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
		1,714	

図表3-20

機械製造 I (Maschinenbau I)			
			9,667

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
		9,667	

4) E. Schmalenbach, a.a.O., S. 407

5) この「カルクラチオンの的に処理された勘定」とは、借方計上内容に勘定クラス3に属する勘定が含まれており、貸方計上内容に関しては、この福利勘定に関しては、唯一の勘定クラス3に属する技術的管理 (Techn. Verwaltung) 勘定が計上されていることを意味している。つまり、借方計上・貸方計上が行われる場合には、借方計上に関しては、勘定クラス3に属する勘定からの振替手続きを経ており、貸方計上に関しては、勘定クラス3に属する勘定への振替手続きを含んでいるという意味である。

図表 3-16 におけるなべ製造工場「製缶工場」(Kesselschmiede) 勘定・溶接所 (Schweisserei) 勘定・図表 3-17 における設計「開発」(Konstruktion) 勘定・図表 3-18 における金属細工「鍛冶 (かじ) 屋」(Schmidede) 勘定・図表 3-19 におけるモデル製作所 (Modellschreinerei) 勘定・図表 3-20 における機械製造 I (Maschinenbau I) 勘定・図表 3-22 における機械製造 II (Maschinenbau II) 勘定は、なべ製造工場「製缶工場」(Kesselschmiede) 勘定・溶接所 (Schweisserei) 勘定に関しては付表 3-(1) における計上内容から、設計「開発」(Konstruktion) 勘定・金属細工「鍛冶 (かじ) 屋」(Schmidede) 勘定・モデル製作所

(Modellschreinerei) 勘定・機械製造 I (Maschinenbau I) 勘定に関しては付表 3-(2) における計上内容から、これらの勘定の貸方には共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe) 勘定への振替手続きが示されている。これらなべ製造工場「製缶工場」(Kesselschmiede) 勘定・溶接所 (Schweisserei) 勘定・設計「開発」(Konstruktion) 勘定・金属細工「鍛冶 (かじ) 屋」(Schmidede) 勘定・モデル製作所 (Modellschreinerei) 勘定・機械製造 I (Maschinenbau I) 勘定のすべてが勘定クラス 5・6・7 のいずれかに位置する勘定であると考えることが可能となる。

図表 3-21

販売特別原価 (Verkaufs Sonderkosten)			
			12,160

売上収益 (Erlöse)			
販売特別原価	12,160		

図表 3-22

機械製造 II (Maschinenbau II)			
			2,514

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
	2,514		

図表 3-23

一般販売原価 (Allgem. Verkaufskosten)			
			7,860

売上収益 (Erlöse)			
一般販売原価	7,860		

図表 3-21 における販売特別原価 (Verkaufs Sonderkosten) 勘定・図表 3-23 における一般販売原価 (Allgem. Verkaufskosten) 勘定は売上収益 (Erlöse) 勘定への振替手続きが貸方に計上されていることから勘定クラス 9⁶⁾ に位置する勘定であると考えることが可能となる。

図表 3-24 における経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe) 勘定・経営における個別原材料 (Einzelkostenmaterial im Betriebe) 勘定・経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe) 勘定は完成品

(Fertigfabrikate) 勘定への振替手続きが貸方に計上されている。そして、この完成品勘定を勘定クラス 8⁷⁾ に位置する勘定であると考えることが可能となる。

付表 3-(4) における経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe) 勘定・経営における個別原材料 (Einzelkostenmaterial im Betriebe) 勘定・経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe) 勘定・完成品 (Fertigfabrikate) 勘定

6) 勘定クラス 9 に関しては、E.シュマーレンバッハは「販売原価 (die Verkaufskosten)」となると示している。E. Schmalenbach, a.a.O., S. 408

7) 勘定クラス 8 に関しては、E.シュマーレンバッハは「販売原価 (die Verkaufskosten)」となると示している。E. Schmalenbach, a.a.O., S. 410

図表 3-24

経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe)			
			41,652
経営における個別原材料 (Einzelkostenmaterial im Betriebe)			
			244,963
経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
			36,182

完成品 (Fertigfabrikate)			
	41,652		
	244,963		
	36,182		

第 4 節 おわりに

原価額計上プロセスと原価配賦額計上プロセスに関しては、図表 3-1 に示されている勘定間の振替内容と付表 1・2・3 に示されている期末残高の把握に至るまで

の計上が必要となることが明らかとなり、したがって、原価諸勘定の計上状況に関しては、これら図表 3-1 と付表 1・2・3 を併せて計上する勘定システムが必要となると考えられる。

付表 1

現金・資金 (Kasse order Finanz)			
		諸口	345,356
給料 (Gehälter)			
現金・資金勘定	14,961		
原材料 (Material)			
現金・資金勘定	263,548		
建造物 [=建物] 維持 (Gebäudeunterhaltung)			
現金・資金勘定	198		
工具維持 (Werkzeugunterhaltung)			
現金・資金勘定	139		
経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
現金・資金勘定	6		
経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)			
現金・資金勘定	2		

賃金 (Löhne)			
現金・資金勘定	43,657		
石炭 (Kohle)			
現金・資金勘定	2,445		
機械維持 (Maschinenunterhaltung)			
現金・資金勘定	52		
照明・点灯 (Beleuchtung)			
現金・資金勘定	4		
一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)			
現金・資金勘定	166		
福利 (Wohlfahrt)			
現金・資金勘定	340		

シュマーレンバッハの内部取引計算に関する一考察

技術的管理 (Techn. Verwaltung)	
現金・資金勘定	363
なべ製造工場 [製缶工場] (Kesselschmiede)	
現金・資金勘定	363
設計 [開発] (Konstruktion)	
現金・資金勘定	276
モデル製作所 (Modellschreinerei)	
現金・資金勘定	92
販売特別原価 (Verkaufssonderkosten)	
現金・資金勘定	12,160

商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)	
現金・資金勘定	6,072
溶接所 (Schweisserei)	
現金・資金勘定	65
金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiede)	
現金・資金勘定	65
機械製造 I (Maschinenbau I)	
現金・資金勘定	319
機械製造 II (Maschinenbau II)	
現金・資金勘定	67

付表 2 - (1)

現金・資金 (Kasse order Finanz)	
	諸口 (期首残高) 1,066,911
	諸口 (期中取引) 345,356
	給料 14,961
	賃金 43,657
	原材料 263,548
	石炭 2,445
	建造物 [=建物] 維持 198
	機械維持 52
	工具維持 139
	経営エネルギー [従業員] I 6
	経営エネルギー [従業員] II 2
	照明・点灯 4
	一般経営 [=管理] 166
	福利 340
	技術的管理 359
	商人的管理 6,072
	なべ製造工場 [製缶工場] 363
	溶接所 65
	設計 [開発] 276
	金属細工 [鍛冶 (かじ) 屋] 65
	機械製造 I 319
	機械製造 II 67
	モデル製作所 92
	販売特別原価 12,160
売上収益	387,198
期末残高	1,025,069
	1,411,267
	1,411,267

付表 2 - (2)

建造物維持勘定 (Gebäudeunterhaltungskont)			
現金・資金勘定	198		
建造物減価償却	1,423		
賃金	143		
原材料	72		
		経営エネルギー〔従業員〕I	44
		経営エネルギー〔従業員〕II	16
		一般経営〔=管理〕	50
		福利	23
		技術的管理	76
		商人的管理	119
		なべ製造工場〔製缶工場〕	488
		溶接所	113
		設計〔開発〕	258
		金属細工〔鍛冶(かじ)屋〕	56
		機械製造 I	388
		機械製造 II	154
		モデル製作所	51
	(1,836)		(1,836)

建建造物減価償却 (Gebäudentabschreibungenkont)			
年度償却額	17,076		
		建造物維持	1,423
		(月間償却額)	

付表 2 - (3)

機械維持勘定 (Maschinenunterhaltungskont)			
現金・資金勘定	52		
機械減価償却	4,589		
賃金	1,353		
原材料	1,431		
		経営エネルギー〔従業員〕I	649
		経営エネルギー〔従業員〕II	359
		照明・点灯	336
		一般経営〔=管理〕	356
		福利	533
		技術的管理	64
		商人的管理	68
		なべ製造工場〔製缶工場〕	1,886
		溶接所	187
		設計〔開発〕	1,312
		金属細工〔鍛冶(かじ)屋〕	367
		機械製造 I	979
		機械製造 II	148
		モデル製作所	181
	(7,425)		(7,425)

機械減価償却 (GMaschinenabschreibungenkont)			
年度償却額	55,068		
		機械維持	4,589
		(月間償却額)	

付表 2 - (4)

工具維持勘定 (Werkzeugeunterhaltungskont)			
現金・資金勘定	139		
工具減価償却	1,102		
賃金	1,102		
原材料	440		
		経営エネルギー[従業員]I	10
		経営エネルギー[従業員]II	9
		一般経営[=管理]	55
		技術的管理	67
		商人的管理	104
		なべ製造工場[製缶工場]	970
		溶接所	261
		設計[開発]	618
		金属細工[鍛冶(かじ)屋]	151
		機械製造 I	387
		機械製造 II	93
		モデル製作所	58
	(2,783)		(2,783)

工具減価償却 (Werkzeugeabschreibungenkont)			
年度償却額	13,224		
		工具維持	1,102
		(月間償却額)	

付表 2 - (5)

給料 (Gehälter)			
現金・資金勘定	14,961	一般経営[=管理]	550
		技術的管理	6,971
		商人的管理	5,370
		なべ製造工場[製缶工場]	360
		溶接所	90
		設計[開発]	340
		金属細工[鍛冶(かじ)屋]	80
		機械製造。	660
		機械製造[400
		モデル製作所	140
	(14,961)		(14,961)

賃金 (Löhne)			
現金・資金勘定	43,657	諸口 (期首残高)	1,624
		建造物[=建物]維持	143
		機械維持	1,353
		工具維持	1,102
		経営エネルギー[従業員]I	359
		経営エネルギー[従業員]II	142
		照明・点灯	50
		一般経営[=管理]	648
		なべ製造工場[製缶工場]	864
		設計[開発]	1,002
		機械製造 I	686
		機械製造 II	181
		モデル製作所	67
		個別賃金	37,401
期末残高	1,965	(期中合計)	(43,998)
	45,622		45,622

付表 2 一(6)

原材料 (Material)			
期首残高	361,513	建造物「=建物」維持	72
現金・資金勘定	263,548	機械維持	1,431
		工具維持	440
		経営エネルギー「従業員」I	117
		経営エネルギー「従業員」II	54
		照明・点灯	25
		一般経営「=管理」	167
		なべ製造工場「製缶工場」	208
		溶接所	7
		設計「開発」	121
		金属細工「鍛冶(かじ)屋」	3
		機械製造 I	172
		機械製造 II	26
		モデル製作所	46
		個別原材料	282,460
		(期中合計)	(285,349)
		期末残高	339,712
	(625,061)		(625,061)

石炭 (Kohle)			
期首残高	3,200	経営エネルギー「従業員」I	1,147
現金・資金勘定	2,445	経営エネルギー「従業員」II	972
		照明・点灯	202
		なべ製造工場「製缶工場」	86
		溶接所	60
		設計「開発」	181
		金属細工「鍛冶(かじ)屋」	91
		機械製造 I	62
		機械製造 II	24
		モデル製作所	20
		(期中合計)	(2,845)
		期末残高	2,800
	(5,645)		(5,645)

付表 2 一(7)

照明・点灯 (Beleuchtung)			
現金・資金勘定	4		
貸金	50		
原材料	25		
石炭	202		
機械維持勘定	336		
		一般経営「=管理」	48
		技術的管理	47
		商人的管理	57
		なべ製造工場「製缶工場」	94
		溶接所	20
		設計「開発」	111
		金属細工「鍛冶(かじ)屋」	32
		機械製造 I	136
		機械製造 II	37
		モデル製作所	35
	(617)		(617)

付表 2-(8)

経営エネルギー [従業員] I (Betriebskraft I)			
現金・資金勘定	6		
賃金	359		
原材料	117		
石炭	1,147		
建造物維持勘定	44		
機械維持勘定	649		
工具維持勘定	10		
		なべ製造工場[製缶工場]	711
		溶接所	70
		設計[開発]	1,026
		金属細工[鍛冶(かじ)屋]	367
		モデル製作所	158
	(2,332)		(2,332)

一般経営 [=管理] (Allg. Betrieb)			
現金・資金勘定	166		
給料	550		
賃金	648		
原材料	167		
建造物維持勘定	50		
機械維持勘定	356		
工具維持勘定	55		
照明・点灯	48		
		なべ製造工場[製缶工場]	449
		溶接所	71
		設計[開発]	510
		金属細工[鍛冶(かじ)屋]	82
		機械製造 I	633
		機械製造 II	173
		モデル製作所	122
	(2,040)		(2,040)

付表 2-(9)

経営エネルギー [従業員] II (Betriebskraft II)			
現金・資金勘定	2		
賃金	142		
原材料	54		
石炭	972		
建造物維持勘定	16		
機械維持勘定	359		
工具維持勘定	9		
		機械製造 I	1,399
		機械製造 II	155
	(1,554)		(1,554)

福利 (Wohlfahrt)			
現金・資金勘定	340		
建造物維持勘定	23		
機械維持勘定	533		
		技術的管理	896
	(896)		(896)

技術的管理 (Techn. Verwaltung)

現金・資金勘定	359		
給料	6,971		
建造物維持勘定	76		
機械維持勘定	64		
工具維持勘定	67		
照明・点灯	47		
福利	896		
		なべ製造工場「製缶工場」	1,866
		溶接所	297
		設計「開発」	2,120
		金属細工「鍛冶(かじ)屋」	339
		機械製造 I	2,628
		機械製造 II	721
		モデル製作所	509
	(8,480)		(8,480)

商人的管理 (Kaufm. Verwaltung)

現金・資金勘定	6,072		
給料	5,370		
建造物維持勘定	119		
機械維持勘定	68		
工具維持勘定	104		
照明・点灯	57		
		なべ製造工場「製缶工場」	865
		溶接所	138
		設計「開発」	982
		金属細工「鍛冶(かじ)屋」	157
		機械製造 I	1,218
		機械製造 II	335
		モデル製作所	235
		一般販売原価	7,860
	(11,790)		(11,790)

付表 3 —(1)

なべ製造工場【製缶工場】(Kesselschmiede)

現金・資金勘定	363		
給料	360		
賃金	864		
原材料	208		
石炭	86		
建造物維持勘定	488		
機械維持勘定	1,886		
工具維持勘定	970		
経営エネルギー「従業員」I	711		
照明・点灯	94		
一般経営「=管理」	449		
技術的管理	1,866		
商人的管理	865		
		共通原価	9,210
	(9,210)		(9,210)

溶接所 (Schweisserei)

現金・資金勘定	65		
給料	90		
原材料	7		
石炭	60		
建造物維持勘定	113		
機械維持勘定	187		
工具維持勘定	261		
経営エネルギー「従業員」I	70		
照明・点灯	20		
一般経営「=管理」	71		
技術的管理	297		
商人的管理	138		
		共通原価	1,379
	(1,379)		(1,379)

付表3-(2)

設計 [開発] (Konstruktion)			
現金・資金勘定	276		
給料	340		
賃金	1,002		
原材料	121		
石炭	181		
建造物維持勘定	258		
機械維持勘定	1,312		
工具維持勘定	618		
経営エネルギー〔従業員〕I	1,026		
照明・点灯	111		
一般経営〔=管理〕	510		
技術的管理	2,120		
商人的管理	982		
		共通原価	8,857
	(8,857)		(8,857)

金属細工 (鍛冶 (かじ) 屋] (Schmiedede)			
現金・資金勘定	65		
給料	80		
原材料	3		
石炭	91		
建造物維持勘定	56		
機械維持勘定	367		
工具維持勘定	151		
経営エネルギー〔従業員〕I	367		
照明・点灯	32		
一般経営〔=管理〕	82		
技術的管理	339		
商人的管理	157		
		共通原価	1,790
	(1,790)		(1,790)

モデル製作所 (Modellschreinerei)			
現金・資金勘定	92		
給料	140		
賃金	67		
原材料	46		
石炭	20		
建造物維持勘定	51		
機械維持勘定	181		
工具維持勘定	58		
経営エネルギー〔従業員〕I	158		
照明・点灯	35		
一般経営〔=管理〕	122		
技術的管理	509		
商人的管理	235		
		共通原価	1,714
	(1,714)		(1,714)

機械製造 I (Maschinenbau I)			
現金・資金勘定	319		
給料	660		
賃金	686		
原材料	172		
石炭	62		
建造物維持勘定	388		
機械維持勘定	979		
工具維持勘定	387		
経営エネルギー〔従業員〕II	1,399		
照明・点灯	136		
一般経営〔=管理〕	633		
技術的管理	2,628		
商人的管理	1,218		
		共通原価	9,667
	(9,667)		(9,667)

付表 3 一(3)

販売特別原価 (Verkaufssonderkosten)	
現金・資金勘定	12,160

一般販売原価 (Allgem. Verkaufskosten)	
商人的管理	7,860

機械製造 II (Maschinenbau II)			
現金・資金勘定	67		
給料	400		
賃金	181		
原材料	26		
石炭	24		
建造物維持勘定	154		
機械維持勘定	148		
工具維持勘定	93		
経営エネルギー[従業員II]	155		
照明・点灯	37		
一般経営[=管理]	173		
技術的管理	721		
商人的管理	335		
		共通原価	2,514
	(2,514)		(2,514)

付表 3 一(4)

経営における個別原価賃金 (Einzelkostenlöhne im Betriebe)			
期首残高	56,267	収益	52,016
賃金	37,401	期末残高	41,652
	93,668		93,668

完成品 (Fertigfabrikate)			
期首残高	298,205	収益	332,108
	41,652	期末残高	288,894
	244,963		
共通原価	36,182		
	621,002		621,002

経営における個別原材料 (Einzelkostenmaterial im Betriebe)			
期首残高	299,114	収益	244,963
原材料	282,460	期末残高	336,611
	581,574		581,574

経営における共通原価 (Gemeinkosten im Betriebe)			
期首残高	50,236		
		完成品	36,182
なべ製造工場[製缶工場]	9,210	期末残高	49,185
溶接所	1,379		
設計[開発]	8,857		
金属細工[鍛冶(かじ)屋]	1,790		
モデル製作所	1,714		
機械製造 I	9,667		
機械製造 II	2,514		
	85,367		85,367
